

ほほ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあ、どうした事でしょう」)

発行 有限会社ナツプ
編集責任 池田誠
発行日 平成二八年七月
問合せ先 〇九八五五二七四〇九

私の寒蘭

みなさんは蘭の世界をご存じでしょうか。今日は少しだけその世界を紹介しましょう。

寒蘭の仕事をしている友人から、お仕事を頂いている蘭係で興味を持ち、十数年前から栽培しています。バブル期は一鉢数千円？と言う価格で売り買ひしたと聞きます。(それが理由で買ってしまったのかも……) 私が持っている30鉢、全部合わせる安くても本当なら数億円になるはず？

そう思って大事に栽培していましたが、少しずつ疎かになりましたが、少しづつ疎かになり、葉が傷んで枯れたり、小黒点が出たりと毎日の手入れが大事と痛感します。そのせいか今年6月と言つのに半分も新芽を出してくれません(泣)。友人から、今後は実生(人口交配種)がいいよと話を聞きさっそく購入。2年後に見事に開花、早速見ても



らいました。花の形が良く今後が楽しみです！と言ってくれましたが、それっきり花芽が出てきません。トホホです。寒蘭の、何に惹きつけられたのか？いまだに分かりませんが、咲いた花を事務所に置く(何とも言えない香りがとても良いですね。香る花、そうでない花、品種によりそれぞれですが、けっして価格の高い花が良い香りを放つとは限りません。花芽が伸び開花した花の形や色・葉とのバランスなど細かく見ていくと、時間を忘れてしまいます。害虫駆除や殺菌など、こまめな手入れに時間を取られ大変ですが、手間をかけ大事に育てた寒蘭が、開花し成長する姿は子育てを楽しむような格別な思いです。還暦を過ぎたら、仕事から少し離れ、ゆっくりと楽しみながら、植物を育てる時間をつくれる人生を送りたいものです。(等)

歩いて行こう！

社員スタッフの健康管理の取り組みとして、今年の秋に某市民マラソンに全員で参加する事となりました。とはい

え、日ごろから運動にはほど遠い面々です。練習のやり方すらよくわからないので、実際にコースを歩いてみようか、そんな声で、梅雨の合間の早朝に、現地に集合して五キロコースを、みんなでのんびりと歩いてみました。

以外に楽しんだなあ、との感想もあれば、うーん膝が痛いよお、との声も。それぞれが何キロコースにエントリーするかは、これから決めていきますが、それに向けての良い指針となった経験だったのではと思います。本番が楽しみです。(賢)



ランチ部 見参!

「高鍋町に行って餃子を食べる」の巻

実はこの日、新富町にある焼肉屋さんの牛タン餃子を食べたいと思って、出かけて行ったところ、夕方の6時から営業になりますとの事でした。食ベログなどを見て確認しましたが、お昼も営業しているという事だったので楽しみにして行ったのに残念！しかし、もう、頭とカラダはギョーザモードになっているので、「そうだ！隣の高鍋町へ向いました。高鍋町は、言わずと知れた美味しい餃子を食べる事の出来る町です。餃子の馬渡、餃子のくろぎ、そして、たかなベギョーザ。餃子の馬渡はお昼の営業をしていないので、あとの2店舗の内なたかなベギョーザへ行ってみる事にしました。

ランチタイムは十一時から十四時で、ラストオーダーは十三時半でした。到着したのが、新富町でのロスタイムもあり十三時過ぎて、ぎりぎり間に合いましたが、それでも

店内には大勢のお客様と、自分たちの後にも餃子のみを買いに来るお客様がひっきりなしに来店していました。店員さんの説明によると、本日の日替わりランチはチャーハンと唐揚げとの事。チャーハンと唐揚げなんて、何とすばらしい組合せなんだ！これも食べたいと言う衝動に駆られて、自分は、日替わりランチ780円を注文して、妻はランチメニューの餃子定食600円を注文しました。

ランチにはライス、スープ、サラダ、お漬物、そして、ソフドリンクが付いています。

紅虎餃子房の鉄鍋棒餃子と見た目は似ていますが、中にはプリプリの海老とシソの葉が入っていて、食べた瞬間、美味しいうっ！と言葉が出てきます。



どおりで、お持ち帰りのお客様の中には普通の餃子のお持ち帰りも多かったのですが、この、上海棒ギョーザのお持ち帰りもとても多かったです。もちろん、日替わりランチの唐揚げとチャーハン、そして、ギョーザ定食もとてもおいしく、満足のいくものでした。(大)



ランチが来る間にスマホでたかなベギョーザをチェックしていると、上海棒ギョーザがお勧めと書いてあったので、追加で注文することにしました。

四月中旬、二年越しの計画をした台湾旅行を、社員スタッフ全員が楽しんできました。その旅行記をご紹介します！

あじがれの台湾

台湾旅行記

一度は訪れてみたいと願っていた台湾。夢が叶っての台湾旅行は期待通りであり、期待を裏切られた雨もあり、慌ただしくも楽しいものとなりました。町中をのんびりと歩き回る犬に驚き、走り行くバイクの多さに驚き、まるで昭和にタイムスリップしたような錯覚。巡る先々で懐かしさを感じました。特に、九份は千と千尋の世界。迷路のような坂道を行きつ戻りつ、楽しみました。食事は、概ね合格？

私の口には合いません。残念ながら食べたいと願っていたものに出会えなかったのは残念でしたが、次回の愉しみにとっておくとしましよう。二泊三日の異国の旅は、想い出に残る旅となりましたが、一番強く印象に残るのはガイドの徐(シヨ)さんの、欠伸でしょうか。(直)



いんちきクワイマーが行く！ 「九州最後の秘境？ 大崩山」編 その②

登山は山頂へと続くルートの中核部へ。このコースを登る事こそが、大崩山を歩く意味になるともいえます。天空へと突き刺さる花崗岩の峰。それが三つのコブとして立ちほだかります。下ワク・中ワク・上ワクと名前のついたこの三連峰を、固定されたロープやハシゴで、時には直登し、時にはその基部を迂回しつつ、ヒーヒー言いながらも、充実感のある山歩きを楽しまします。中ワクでルートを間違え、絶壁の行き止まりへ。命を投げ出すようなコースの途中まで進んで、おっかなびっくり引き返す。これはトラウマになりました。今でも夢に見ますわ。アップダウンの激しさで、半端ない高度感の緊張で疲労が蓄積。ふくら脛がピクピクいつてくるので、カラータイマーが点滅。10分ほど休んで山頂までのエネルギーを充填する。分岐を山頂へ取ると、あたりの雰囲気は一変し、茫漠たる荒地のよゆうな雰囲気、岩の道から土とヤブの道へと変わる。ダラダラと山頂へ続く傾斜を、ただ

上へ上へと歩いていく。こんな道が一番つらいのだ。やがてあたりはスズタケの勢いが復活。山頂までのゆるやかな稜線歩きになる。このあたりの標高は1600m前後で、霜柱をガリガリと踏みつけないが歩くのは楽しい。下山後に気が付いたけれど、登山口の標高は約650mで山頂は1640m。つまりは標高差は1000mあるわけで、おまけにアップダウンとハシゴ。そりゃきつい山のはずすよ先輩...と改めて認識した次第。左にゆるやかなカーブを描く稜線の先に山頂を確かめながら歩いていくと、前方からドカドカと足音が。あ、イヤ、インシシか？と一瞬緊張したが、人の声が聞こえた。ああ、先行のグループだ。三人の若者が元気よく駆け下りてくる。その顔には疲れは見えず、はつらつとしている様子が清々しい。気持ちよく挨拶をかわし、少しだけ軽くなった足取りで山頂まであと少しだ。10・40山頂。冬枯れの木々の隙間から少しだけ眺望が得られた。家族に「山頂

なつ」の写真を送り、石塚という小さな広場へ戻る。



お昼ごはん。景色をながめながら、お湯をわかつて昼食。荷物の軽量化を図るため、ガスのストープコンロではなく、小型軽量のアルコールストーブを。すぐぶるイイ調子だ。飯がうまし！



単独行の男性が上がってきた。ここが山頂ですかね？と、バテ気味の顔で訪ねられたので、いえ、まだ先です。と地獄に突き落とす返事...でもあと5、6分ですよ！とフォローしたのは言うまでもないです。十分に休憩できたし、場所を空け渡し、さあ、下りに向かう事とした。つづく(賢)

編集後記

毎日、暑い日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか？

今月も先月号に続き、ナップ社員の台湾旅行記第二弾を記載しました。今回私の旅行記も載せてもらおうと思ったのですが、台湾旅行に行ったのが4月の事だったので、歳のせいかわかた記憶が少しずつ薄れて来ており、台湾で何処を観光したのかもはっきり覚えていない状態です。もう一度旅行パンフを見直し、記憶が戻って来たら記事を書き載せたいと思います。お楽しみに！

これから毎日暑い日が続きますが、熱中症に気を付けてお仕事頑張ってくださいね。(誠)

